

実践事例⑭ 足立区立千寿桜堤中学校

1 取組・活動名

「勝手に応援プロジェクト」

2 取組・活動のねらい

- オリンピック・パラリンピック出場選手への応援・交流
 - ・東京 2020 大会に向けて、オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。
 - ・普段接することの少ないパラスポーツへの理解を深める。
- ボランティアマインドの醸成
 - ・自ら行動を起こし、実践することで生まれる喜びを通して、他人の役に立つことやボランティアの意義を理解する。
 - ・募金活動や地域活動等を通して、ボランティアへの関心を高める。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・8時間」

4 実施上の工夫

- ・活動の主体を生徒とし、生徒総会等であげられた生徒の意見から具体的な活動を決定した。
- ・生徒会中心で準備を行い、ボランティアを募り全校生徒の協力のもと実施する。
- ・オリンピック・パラリンピック応援プロジェクトでは全校生徒が関わり、自筆のメッセージを選手へ送ることで応援を行う。

5 本取組・活動の内容



「オリンピックを全校で応援」

- ・女子重量挙げのオリンピックを応援するために、全校生徒で千羽鶴を折って、オリンピックに届けた。
- ・生徒会が中心となり、全校生徒で一人一つ鶴を折って作成をした。全校生徒が短時間で鶴を折ることができるよう工夫をし、校内の中央委員会などを活用して仕上げた。
- ・その後、オリンピックはリオデジャネイロオリンピックにて銅メダルを獲得し、その原動力になったと感謝のメッセージを頂いた。

「パラリンピアンを全校で応援」



- ・ 1・2年生が中心となって、リオパラリンピック出場選手へ応援メッセージを作成し、届けた。パラリンピック終了後、選手本人が本校で講演会を行い、直接応援のお礼を言われる機会にも恵まれた。
- ・ 障害についての考え方、設備や環境等の配慮事項等のほか、できない事をできるようになる方法を考えることや夢をもつこと、無いものを悔やむのではなく、諦めずに工夫して取り組むことで新たな道が開けることなど、障害者理解だけでなく、受験を控えた生徒にとって大変貴重な時間となった。

「生徒の発案で熊本を応援」



- ・ 昨年度の生徒総会で、生徒から「熊本募金をやりたい」という提案が出たことをきっかけに始まった活動である。
- ・ はじめは校内での募金だったが、地元の方々の協力もあり、生徒会の声かけによって集まったボランティアの生徒とともに北千住駅前にて募金を行なった。
- ・ 少しでも熊本の力になれたという気持ちと同時に、地域の方々の暖かさを感じる事ができた。

6 成果

- ・ 自らすすんで行動することで予想をしていなかった成果が生まれ、生徒たちの中に物事を前向きに捉える資質を養うことができた。
- ・ 誰かのためにと行って行動が、最終的には自分自身の心が満たされることになったという、ボランティアマインドの本質を捉えた成長・気付きがあった。
- ・ 実際にオリンピックやパラリンピアンとメッセージカード等を通して関わることによって、オリンピック・パラリンピックに興味をもつ生徒が多くなった。
- ・ 普段関わりの少ないパラスポーツについて、選手の講演等を通して関心をもち、障害のある方への理解を深めることができた。
- ・ リオオリンピック・パラリンピックを通して、東京2020大会にも関心をもち、オリンピック・パラリンピックにもいろいろな形で関わっていきたいと考えるようになった。
- ・ 勝手に応援プロジェクトから、スポーツだけでなくボランティアに広く関心をもち、被災地の復興支援などを行いたいという気持ちが芽生えた。
- ・ 地域の方々の協力を得て街頭での募金活動を実施することによって、学校と地域の関係がより深いものになった。